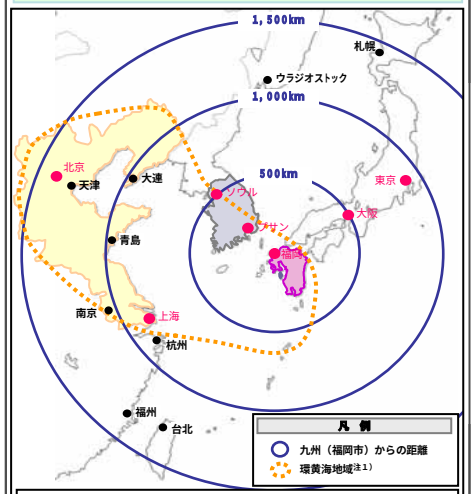
活力ある経済社会を目指す検討小委員会における検討状況等について

資料1－2

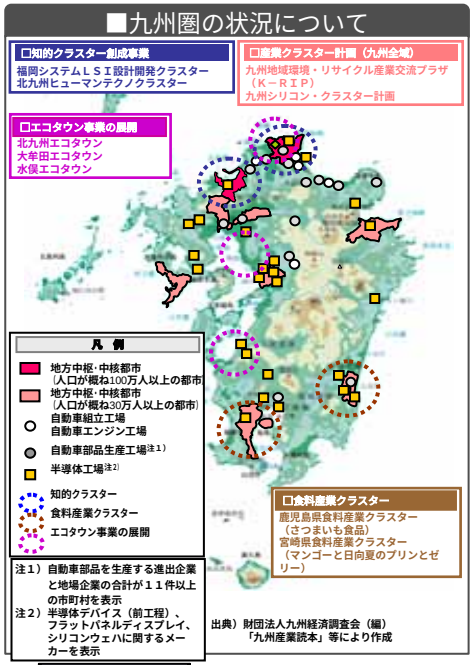
■九州圏を取巻く状況について

■九州圏と東アジアの地理的近接性
■経済的な結びつきが強まる環黄海地域



注1）環黄海地域：
日本（九州）
中国（遼寧省・河北省・山東省・江蘇省・北京市・天津市・上海市）
韓国（京畿道・忠清南道・全羅北道・全羅南道・慶尚南道・仁川市・大田市・光州市・釜山市）

■九州圏の状況について



注1）自動車部品を生産する進出企業と地場企業の合計が１１件以上の市町村を表示
注2）半導体デバイス（前工程）、フラットパネルディスプレイ、シリコンウェハに関するメーカーを表示

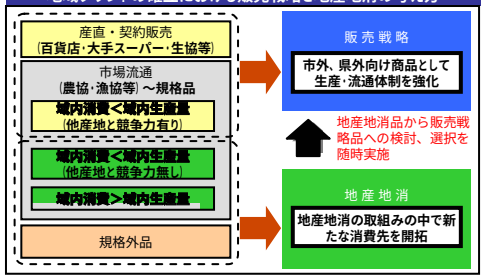
出典）財団法人九州経済調査会（編）「九州産業読本」等により作成

■ゲストスピーカーからの提言

「活力ある経済社会を目指す九州圏がやるべきこと」
財団法人ながさき地域政策研究所
常任理事　菊森　淳文　氏

・「九州圏」戦略の明確化
→ファームランド（高付加価値農業化）
→フードランド（安心・安全な食の提供）
→観光ランド（豊富な地域資源を活かした観光基地化）
→地域ブランドの確立

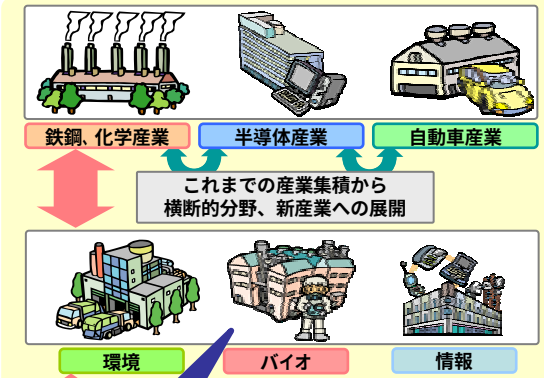
地域ブランドの確立における販売戦略と地産地消の考え方



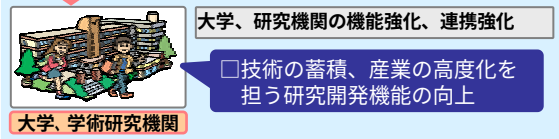
●競争力＝商品の品質・価格・ブランド等他地域商品との比較優位性
●規格外品＝大きさ・計上・季節・魚種等の点で市場流津に乗らないもの

これまでの議論で見えてくる将来イメージ

□地理的条件や集積産業が担ってきた役割から国内外の企業の自発的な立地等を促す九州圏

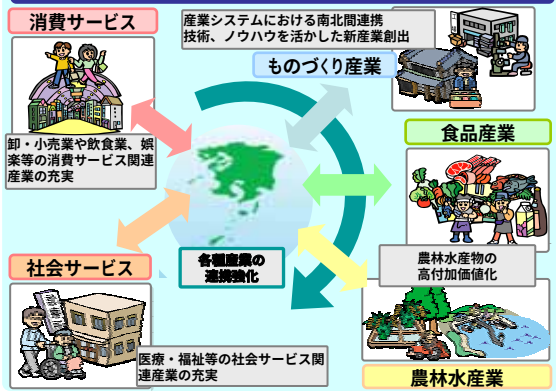


□環境、バイオ、情報等の産業への重点化等による国際競争力の向上



□技術の蓄積、産業の高度化を担う研究開発機能の向上

□地域を維持する上で重要な社会サービス関連産業への転換や地域産業の強みによる地域活性化



■活力ある経済社会における基本的整理

検討の視点

①東アジアの中での九州圏の個性と魅力の創出：
経済成長の著しい東アジアと隣接する九州圏として、東アジアとの交流・連携を深め、東アジアの中で個性と魅力を創出し、発展を目指す視点
②自立的な発展を形成する地域力の結集：
地域特性、伝統文化等の地域特有の魅力を活かした産業の創出、振興を目指し、それらが相まって九州圏の総合力が向上・活性化するという好循環を生み出す視点

議論の進め方

九州圏の産業振興と発展（第２回議論）

・東アジアにおける著しい経済成長と連動しながら自立的な発展を実現するための議論
・九州圏における産業発展の方策に関する議論

産業振興を支える環境の構築（第３回議論）

・九州圏の産業振興を支える人材、産業構造等の産業を取巻く環境に関する議論

※他の論点は必要に応じて議論

８つの論点

- 論点１　産業集積を活かした新たな産業展望
- 論点２　新産業を核とした産業振興
- 論点３　ものづくり基盤の強化
- 論点４　観光資源等による魅力創出
- 論点５　東アジアの玄関口としての社会基盤の整備
- 論点６　持続的な成長を牽引する都市圏の形成
- 論点７　多種多様な人材が集積する産業構造の形成
- 論点８　農林水産業等の地域を支える産業の振興と安定的発展

主な議論の内容

□産業集積を活かした新たな価値の創造
・自動車産業と半導体産業の融合やそれらの技能・ノウハウを活かした環境問題解決型の産業振興等の新たな視点が必要

□企業進出上の九州圏の位置づけの明確化
・国内外を見据えた九州圏への企業進出、マザー工場化などの優位性を確認すべき

□環境、バイオ、ＩＣＴ等の成長産業の育成
・環境・バイオ・情報等はこれからの成長産業として重要
・静脈物流や新産業創出における情報（コンテンツ）の重要性を認識すべき

□研究開発機能の強化
・大学を含めた研究開発機能を強化すべき

□地域を支える産業振興
・経済を支えてきた中核企業も議論すべき
・地域産業は衰退しても技術を活用した新産業の創出は可能
・建設業等の構造転換や水産業の販路拡大等も検討すべき